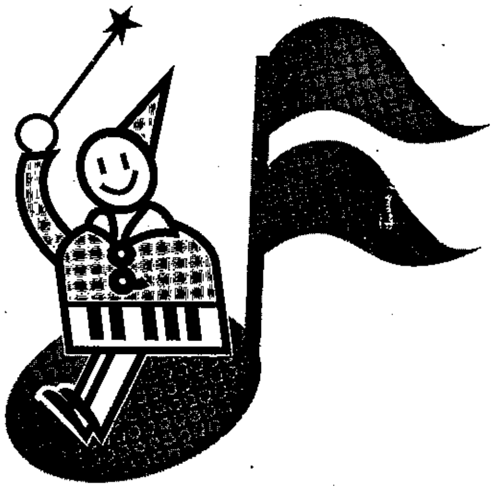
カワイデジタルピアノ

EP55

取扱説明書



KAWAI

このたびはカワイ電子ピアノEP55をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

〈EP55〉は特に音楽学習用ということを考えてカワイが開発した、電子ピアノです。「これから音楽を始めよう」というお子様に最適なことはもちろん、多彩な音色でアンサンブルを楽しみたい大人の方にも十分お楽しみいただけます。

〈EP55〉の演奏にあたりましては、この取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後も保管し、わからない点がでてきたら、その都度ご利用ください。

もくじ

EP55の主な特徴 …… 1
ご使用上の注意 …… 2
各部の名称と働き（1） …… 4
各部の名称と働き（2） …… 6
操作方法 …… 8
　0．演奏の準備 …… 8
　1．演奏モード …… 8
　　1」音色の選択 …… 8
　　2」音色にエフェクトをかけてみましょう …… 10
　　3」タッチ・カーブの選択 …… 11
　　4」トランスポーズ …… 12
　2．設定モード …… 13
　　1」設定モードへの入り方 …… 13
　　2」各設定モードの選び方 …… 13
　　3」設定モードからの出かた …… 14
　　4」チューニングの調整 …… 14
MIDI（ミディ）機能 …… 16
　1．MIDIの考え方 …… 16
　2．MIDIの使用例 …… 17
　　1」ほかのMIDIキーボードとのアンサンブル …… 17
　　2」ドラムマシンとの演奏 …… 18
　　3」シンセサイザー音源モジュールとの演奏 …… 18
　　4」シーケンサーを使っての録音と再生 …… 19
　　5」MIDIチャンネルの設定 …… 20
　　6」プログラム（音色）ナンバー送信の設定 …… 22
　　7」マルチ・ティンバー・モードのオン/オフの設定 …… 23
仕様 …… 25
MIDI（ミディ）インプリメンテーションチャート …… 26

EP55の主な特徴

DMS2音源によるリアルな音色

EP55にはDMS2（DIGITAL MULTI SPECTRUM2）音源による本物の楽器を忠実に再現した音色が内蔵されています。

自然なピアノタッチを生み出す木製鍵盤

鍵盤にはピアノと同じ木製鍵盤（New AWA鍵盤）を採用しています。材質や重心、バランスをどこまでもピアノの鍵盤に近づけ、指になじむ自然なタッチを実現しています。

豊富な音色群

音色数はメロディー音色12、パーカッション音色53と豊富なため、独奏はもちろんアンサンブル演奏では特に幅広い演奏効果がえられます。

わかりやすい表示

ボタンの表示にはカタカナ文字を採用。わかりやすい表示としました。

簡単な操作

操作方法はできるかぎりシンプルにしました。お子様はもちろん、はじめてキーボードにさわるような方でも簡単に演奏が楽しめるようになっています。

ご使用上の注意

設置場所について

次のような場所でのご使用は故障の原因となりますのでご注意下さい。

- 直射日光のあたる場所
- 極端に温度、湿度の高い場所
- 日中の車内
- 砂やホコリの多い場所
- 振動の多い場所

雑音について

ごく近くでラジオやテレビ、蛍光灯、モーターを有する電気機器等がありますと、雑音の原因となることがあります。十分離してご使用下さい。

取扱いについて

①過度の衝撃や無理な力などを加えますと、傷や故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に重いものやコップ、花ビンなど水（液体）の入った容器をおかないよう注意して下さい。
②分解したり、改造することは大変危険ですので絶対にしないで下さい。
③本体内部にはヘアピン、硬貨などの金属物が鍵盤等のスキマから入らないように注意してください。

外装のお手入れについて

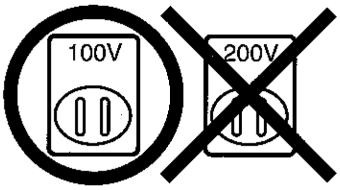
汚れは柔らかい布でふいて下さい。それでも汚れがおちないときは布を少し湿らせてふいて下さい。アルコールやシンナーは絶対に使わないで下さい。

ご使用になった後は

必ず電源を切って下さい。長時間電源を入れたままにしておくと思わぬトラブルの原因となります。
長い間ご使用にならないときや雷の鳴っているときは、電源プラグをコンセントから抜いておいて下さい。

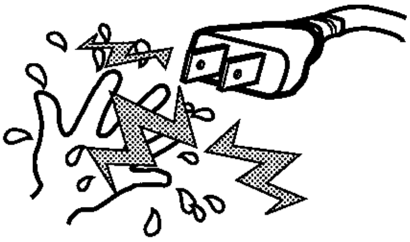
電源について

電源は必ず家庭用100Vのコンセントをご使用ください。誤って100V以上の電源を使用しますと大変危険ですので、よくお確かめください。



電源プラグ、コードの取扱い

電源プラグをぬれた手で触ったりすると感電する恐れがありますので、ご注意ください。
また、踏みつけたり、足でひっかけたりすると断線やショートの原因となりますのでご注意ください。



スライド式キーカバーの取扱い

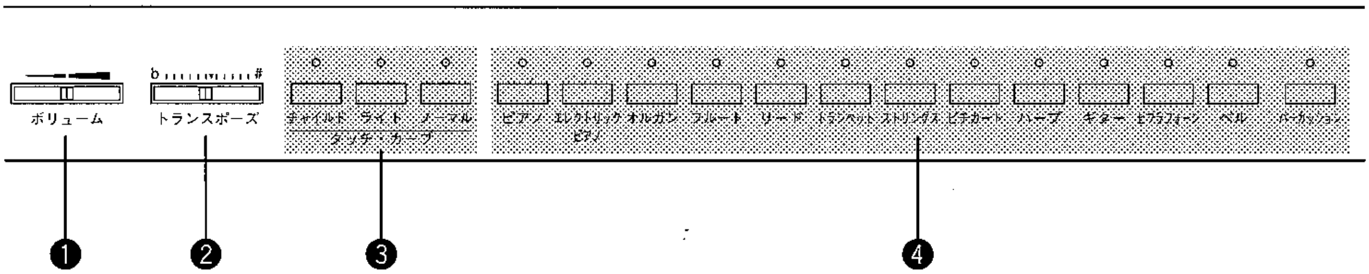
スライド式キーカバーの上に重いものを乗せたり、強い力を加えないでください。
また、スライド式キーカバーの開閉は、両手を添えて静かに行ってください。（キーカバーは上に持ち上げないでください。）

保証書の手続き

保証書は、購入時点での手続きが行なわれていない場合には無効となることがあります。必ず購入されたお店でお手続きを行なった上で、大切に保管してください。

各部の名称と働き（1）

フロントパネル



❶ ボリューム

音量の大小を調整します。スライダーを右に動かす程音量が大きくなります。

❷ トランスポーズ　☞12ページ

弾き方を変えずに簡単に移調できます。調のことなる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏をするときに便利です。

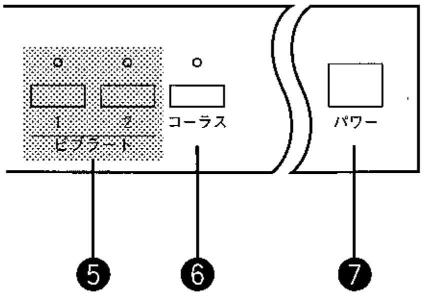
▼を中心に、上下をあわせて1オクターブ内で移調できます。通常は▼の位置でお使いください。

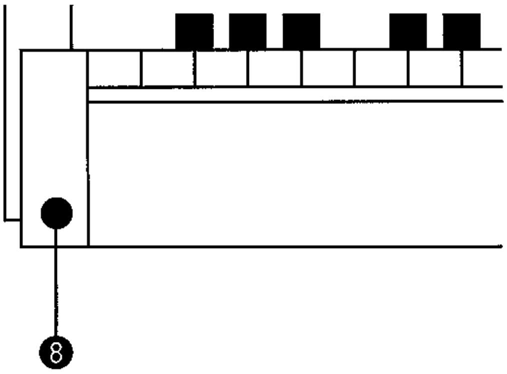
❸ タッチ・カーブ選択ボタン（チャイルド、ライト、ノーマル）☞11ページ

タッチ・カーブを選択するボタンです。

❹ 音色選択ボタン（12音色＋パーカッション53音色）☞8ページ

音色を選択するボタンです。演奏したい曲に合わせて音を選んでください。また、パーカッションは53の音色が鍵盤にわりふられています。鍵盤にどの音色がわりふられているかについては、9ページをご覧ください。





❺ ビブラートボタン（1、2）　☞10ページ

音をふるわせる効果をあたえます。ビブラート1、ビブラート2の2種類あり、“2”の方が強く効果がかかります。

★ピアノ、ピチカート、ハープ、ギターの各音色には、ビブラート効果がかかりません。

❻ コーラスボタン　☞10ページ

音にゆったりとした広がりを与えます。

❼ 電源ボタン

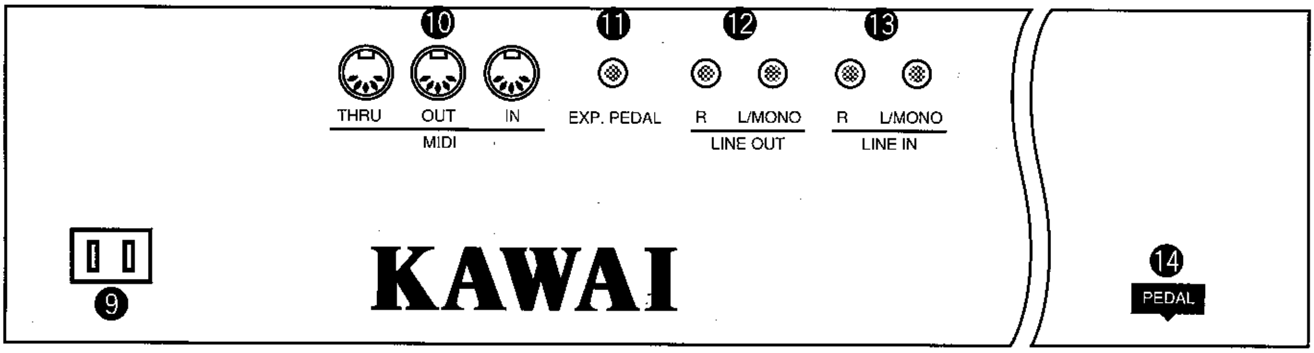
電源を入れたり切ったりするボタンです。ご使用後は必ず電源ボタンを切ってください。

❽ ヘッドホン端子

夜間などの演奏の際に、この端子にヘッドホンを接続すると、本体のスピーカーからは音がでなくなり、周囲にきがねなく演奏を楽しむことができます。

各部の名称と働き（2）

リアパネル（本体後部）



⑨ ACアウトレット

AC100Vの出力です。シーケンサーやキーボードなど、外部機器の電源として使用できます。（掃除機やヒーター等消費電力の高い製品は使用できません）

⑩ MIDI（ミディ）IN（イン）/ OUT（アウト）/ THRU（スルー）端子　☞16ページ

ほかのMIDI機器と接続するときにこの端子を使います。

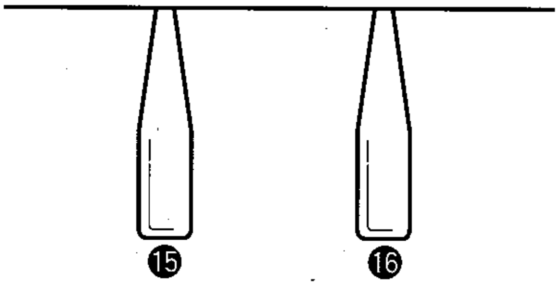
⑪ エクスプレッションペダル端子

別売のエクスプレッションペダル（V-20X）を接続すると、足で音量の調整ができます。

⑫ ラインアウト端子

本機の音をほかの外部機器（アンプ、ステレオ）などで聴いたり録音したりする場合に使う出力端子です。R（アール）は右側、L（エル）/ MONO（モノ）は左側の出力を示しています。なお、接続先の入力がモノラルの場合はR（アール）側はコードを接続しないで、L（エル）/ MONO（モノ）側から出力します。

ペダル



⓭ ラインイン端子

ほかの電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。R（アール）は右側、L（エル）／MONO（モノ）は左側の入力を示しています。なお、モノラルの信号はL（エル）／MONO（モノ）側に入力してください。

⓮ ペダル端子表示

ダンパー・ペダル、ソフト・ペダルのプラグを接続する端子の位置を示します。

⓯ ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音色がやわらかくなり、音量も小さくなります。

⓰ ダンパー・ペダル

鍵盤から手を離しても音が長くのび、余韻のある豊かな音になります。

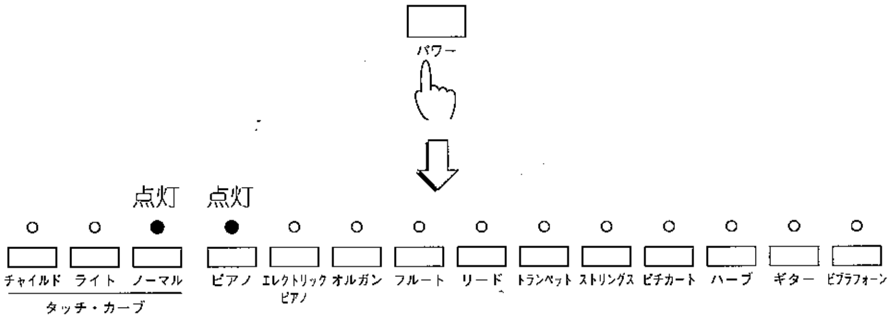
（オルガン、フルート、リード、トランペット、ストリングスの音は、ダンパー・ペダルを踏んでいる間音が続いています。）

操作方法

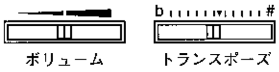
0 演奏の準備

ステップ 1　電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

ステップ 2　電源ボタンを押して、電源を入れます。
下の図のようにランプが点灯しましたか。



ステップ 3　ボリュームのレバーをまん中あたりにセットしてください。
トランスポーズレバーは、▼の位置にセットしてください。

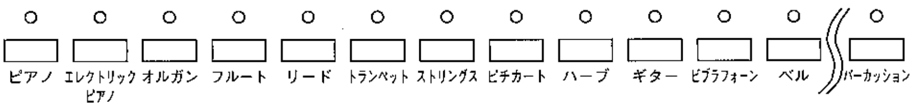


さあ、演奏するための準備ができました。

1 演奏モード

演奏をするための操作を説明します。

1 音色の選択（12音色とパーカッション）



好みの音を１つだけ音色選択ボタンから選んで押してみましょう。（最初は「ピアノ」の音色になっています。）
選ばれた音色ボタンのランプが点灯しましたね。
これで選んだボタンの音色で演奏することができます。
パーカッションを選ぶと、鍵盤ごとに違った打楽器の音を演奏することができます。鍵盤と打楽器の関係は、次の表のようになっています。

バスドラム（コンサート1）
バスドラム（コンサート2）
スネア（コンサート）
スネア（コンサート）
バスドラム（ポピュラー1）
バスドラム（ポピュラー2）
サイド スティック
スネア（ポピュラー）
ハンド クラップ
スネア（コンサート）
フロア・タム1
ハイハット（クローズ）
フロア・タム2
ハイハット（ペダル）
ロー・タム
ハイハット（オープン）
ミッド・タム1
ミッド・タム2
トップ・シンバル1
ハイ・タム
サイド・シンバル1
コンサート・シンバル
ライドベル
タンバリン
スプラッシュ・シンバル
カウベル
トップ・シンバル2
ビブラスラップ
サイド・シンバル2
ボンゴ（ハイ）
ボンゴ（ロー）
コンガ（ミュート・ハイ）
コンガ（オープン・ハイ）
コンガ（ロー）

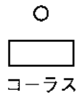
ティンバレス（ハイ）
ティンバレス（ロー）
アゴゴ（ハイ）
アゴゴ（ロー）
カバサ
マラカス
ホイッスル（ショート）
ホイッスル（ロング）
ギロ（ショート）
ギロ（ロング）
クラベス
ウッド・ブロック（ハイ）
ウッド・ブロック（ロー）
クイーカ（ミュート）
クイーカ（オープン）
トライアングル（ミュート）
トライアングル（オープン）
シェイカー
ジングル・ベル
ベルツリー
カスタネット

★空欄になっている鍵盤は音がでません。

2 音色にエフェクトをかけてみましょう

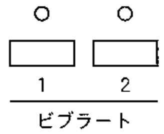
音色に多彩な色合いや臨場感をもたらすエフェクト（効果）を使ってみましょう。

●コーラス（オン、オフ）



音にコーラス効果を与えてみましょう。コーラスは音に広がりを持たせます。
「コーラス」ボタンを押して、ランプが点灯なら“オン”。消灯なら“オフ”（コーラスがかかっていない状態)となり、ボタンを押すたびに切り替わります。

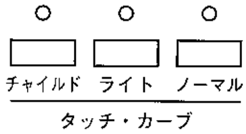
●ビブラート（1，2，オフ）



ビブラートは、音をふるわせる効果です。フルート等の管楽器や、ビブラフォーン等の音色に使うと効果的です。
「ビブラート１」、「ビブラート２」のどちらかを選択します。点灯したボタンのランプをもう一度押すとランプは消えます。どちらのランプも消えている場合は“オフ”の状態（ビブラートがかかっていない状態）となります。

★ピアノ、ピチカート、ハープ、ギターの各音色には、ビブラート効果がかかりません。

3 タッチ・カーブの選択（チャイルド，ライト，ノーマル，オフ）



ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと音量もだんだん大きくなります。
この時の鍵盤を弾く強さと音の大きさとの関係を表したものを「タッチ・カーブ」といいます。タッチ・カーブによって、鍵盤が重く感じたり、軽く感じたりします。
これから説明する４種類のタッチ・カーブを選ぶことによって、演奏する人に最適な感じ（タッチ感）を選択できます。

「チャイルド」・・・弱い力で弾いても大きな音が出せます。まだ指の力が弱い、小さなお子様でも、きちんと発音させることができます。

「ライト」・・・・・・・「チャイルド」と「ノーマル」の中間にあたるタッチ・カーブです。まだピアノになれていない人や、指の力があまり強くない人のためのタッチ・カーブです。

「ノーマル」・・・・・普通のピアノとほぼ同じ感覚で弾くことができます。電源を入れた時には、常にこのタッチ・カーブが選ばれています。

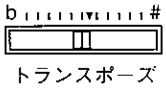
「オフ」・・・・・・・・・タッチ・カーブが選ばれていない状態です。鍵盤を弾く強さに関係なく、いつも一定の音量で音が出ます。オルガンの音を演奏する時や、音の大きさをそろえたい時に便利です。

●タッチ・カーブの選びかた

「チャイルド」「ライト」「ノーマル」のうち、好みのタッチ・カーブの選択ボタンを押してみましょう。
押したボタンのランプが点灯して、どのタッチ・カーブが選ばれたのがわかります。
また、いま選んだタッチ・カーブのボタンをもう一度押してみましょう。ランプが消え、タッチ・カーブが「オフ」になったことを示します。

4 トランスポーズ（移調）

トランスポーズ機能は、鍵盤の移調をする機能です。伴奏をするときに、歌う人の声の高さに合わせて移調をしたり、黒鍵を多く使う難しい調の曲を、音の高さをかえずに白鍵だけで弾くことが簡単にできます。



ステップ 1

▼の位置が通常のピアノの位置（C）です。
通常はこの位置に合わせてください。

ステップ 2

スライダーを右に動かすと同じ鍵盤を弾いても音が高くなり、逆に左に動かすと音が低くなります。

★各目盛りは半音単位になっています。上下合わせて１オクターブ内で移調できます。

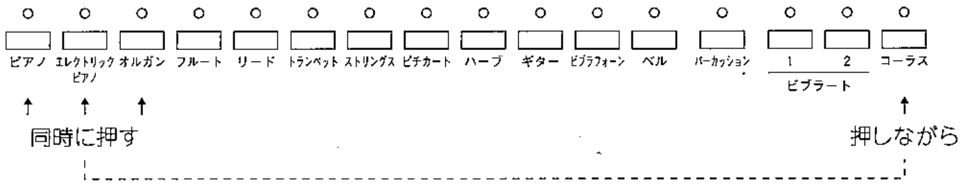
2 設定モード

ここではチューニング調整、MIDI機能の設定などを行うモードについて説明します。これらの設定は、パネル上のボタンと鍵盤を使って行ないますので、設定方法をよく理解してから行なってください。
まず、通常の演奏モードから設定モードに入ります。

1 設定モードへの入り方

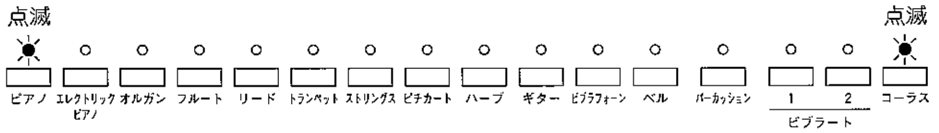
ステップ 1

「コーラス」ボタンを押しながら、「ピアノ」、「エレクトリックピアノ」、「オルガン」の３つのボタンを同時に押します。



ステップ 2

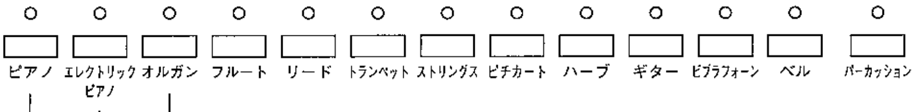
「コーラス」と「ピアノ」のランプが点滅し、これで“設定モード”に入りました。



★この状態では鍵盤を弾いても音は出ません。

2 各設定モードの選び方

チューニングなどいろいろな設定をするには、“設定モード”に入った後、音色セレクトボタンを押してそれぞれの“設定モード”に入ります。各設定と音色セレクトボタンの関係は、下図のようになっています。



オルガン — チューニングの調整（14ページ）
エレクトリックピアノ — MIDIチャンネルの設定（20ページ）
マルチ・ティンバー・モードのオン／オフ（23ページ）
ピアノ — プログラム・ナンバーのオン／オフ（22ページ）
（MIDIの設定：MIDIチャンネルの設定、マルチ・ティンバー・モードのオン／オフ、プログラム・ナンバーのオン／オフ）

3 設定モードからの出かた

“設定モード”から“演奏モード”に戻ります。
点滅している「コーラス」ボタンを再び押し、ランプの点滅が消えると“設定モード”から出たことになります。

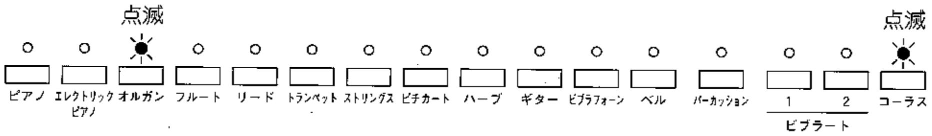
★“設定モード”から出ると、“設定モード”に入る前の状態に戻ります。

4 チューニングの調整

チューニング調整はほかの楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行ないます。

ステップ1 1 の手順で“設定モード”に入ります。(13ページ参照)

ステップ2 「オルガン」のボタンを押します。（ 2 参照）

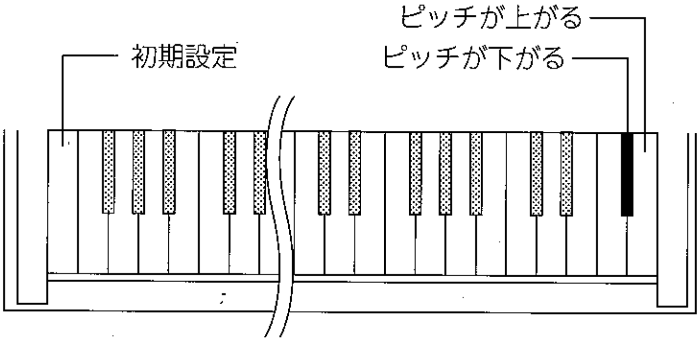


「ピアノ」の点滅が「オルガン」の点滅に変わり、チューニングを調整するモードになりました。

★この状態で鍵盤を弾くと、“設定モード”に入る前に選ばれていた音色が鳴ります。
チューニング調整は、この音色を使って行ないます。音色を変えたいときには、一度“設定モード”から出て、（ 3 参照）音色を選びなおしてから、再度ステップ1、ステップ2の操作を行ないます。

ステップ 3

チューニングを調整します。
右端の白鍵を押すごとにピッチが少しずつ上がります。また、右端の黒鍵を押すごとにピッチが少しずつ下がります。
左端の白鍵を押すと、チューニングは初期設定（チューニング調整をする前の設定）に戻ります。



★チューニングできる範囲は±50セントです。（100セント=半音）
1回押すごとに100/64セント変化します。

ステップ 4

チューニングの調整が終わったら、「コーラス」ボタンを押し、"設定モード"から出ましょう。
（各設定を選ぶ音色ボタンをおせば、引き続き、他の設定モードに移ることもできます。）

★チューニングの設定は、電源を切ったあともそのまま残ります。

MIDI（ミディ）機能

1 MIDIの考え方

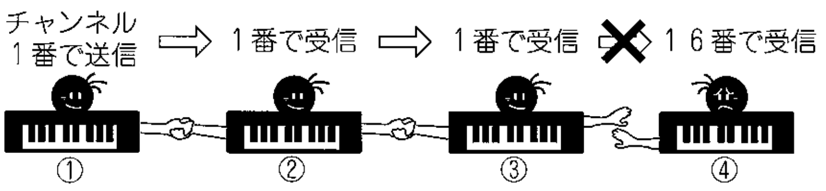
MIDI（ミディ）とは、Musical（ミュージカル） Instrument（インストゥルメント） Digital（デジタル） Interface（インターフェイス）の略称で、電子、電気楽器どうしを接続するための世界統一規格のことです。電子楽器やコンピューターなどにMIDI端子がついていればお互いの演奏情報を交換することができます。

MIDI端子には、IN（イン）、OUT（アウト）、THRU（スルー）の3つの種類があります。いずれもMIDI専用ケーブルで接続しましょう。

IN　　：音色やどの鍵盤をどれだけ押したかなどの情報を受信します。
OUT　：音色やどの鍵盤をどれだけ押したかなどの情報を送信します。
THRU ：受信した情報をそのままほかの楽器に送ります。

MIDIには、チャンネルというものがあります。チャンネルには受信チャンネルと送信チャンネルの2種類があり、通常の場合、MIDI機能を持った楽器はこの両方を備えています。
受信チャンネルとは、ある楽器がほかの楽器から情報を受信するときのチャンネルで、送信チャンネルとはある楽器がほかの楽器へ情報を送信するときのチャンネルです。

例えばMIDI楽器を次のように接続して演奏するとします。

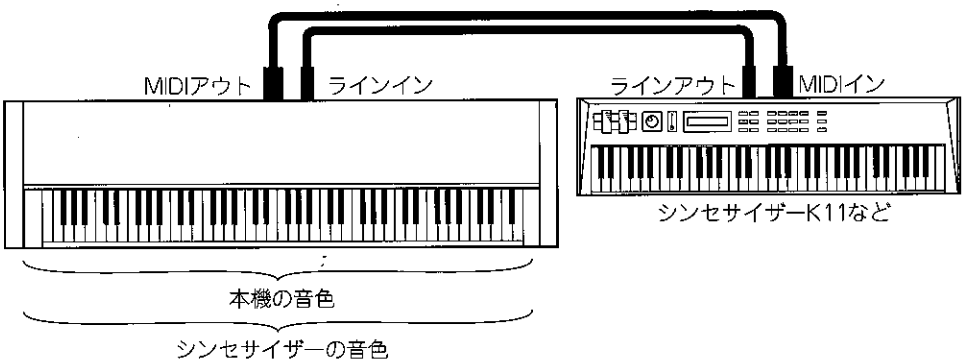


（①が送信楽器、②③④が受信楽器）

①の送信楽器は送信チャンネルとともに鍵盤情報などを②、③の受信楽器に送ります。②、③の受信楽器にはこの情報が送られてきます。基本的には②、③の受信楽器の受信チャンネルと①の送信チャンネルが一致していれば送られてきた情報を受け取りますが、③と④のようにチャンネル番号が一致していなければ受け取らないということになります。
チャンネル番号は、送信、受信とも1～16までの番号を使用することができます。

2 MIDIの使用例

1 ほかのMIDIキーボードとのアンサンブル

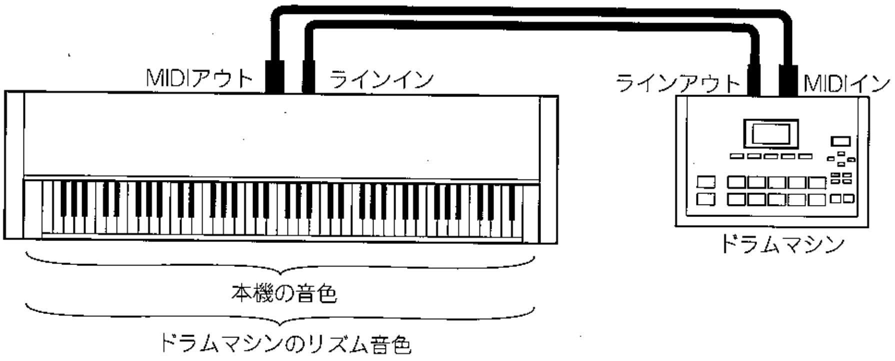


図のように接続すると、電子ピアノで弾いた情報（どの鍵盤をどれくらいの強さで弾いたか）がそのままシンセサイザーに伝わります。さらにシンセサイザーのラインアウトと本機のラインインを接続することにより、電子ピアノの音にシンセサイザーの音を重ねて出すことができます。

音色は、別々に設定できますので、電子ピアノのピアノ音にシンセサイザーのストリングスの音を重ねて、厚みのある音にするなど、工夫しだいでいろいろなアンサンブルをつくりだすこともできます。

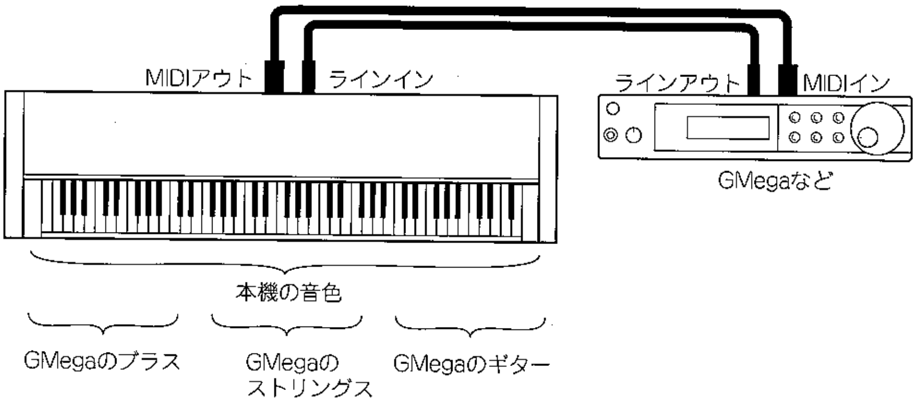
また、MIDIインとMIDIアウトの接続を逆にすればシンセサイザーの方を弾いて電子ピアノの音を出すこともできます。

2 ドラムマシンとの演奏



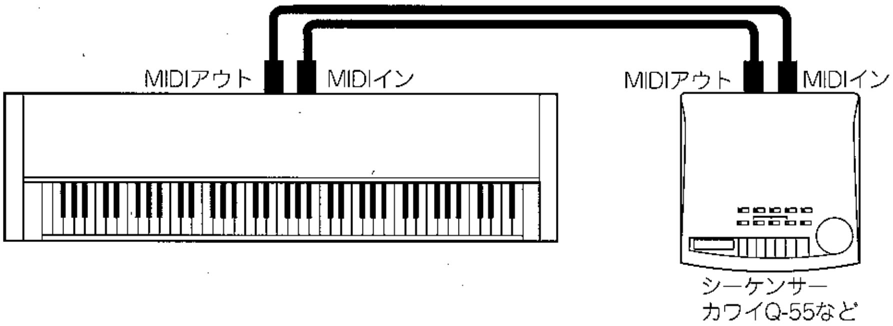
図のように接続すると、ドラムマシンのリズムに合わせた演奏ができるだけでなく、電子ピアノの鍵盤をたたくことにより、ドラムマシンのリズム楽器音も鳴らすことができます。

3 シンセサイザー音源モジュールとの演奏



図のように接続すれば、1 のような音の重ね合わせのほかに、鍵盤上でたくさんの音色を、分けて演奏することができます。この場合、GMegaはマルチモードで3音色のマルチ音色スプリットにセッティングします。GMegaの取扱いについては、GMegaの取扱説明書をお読みください。
なお、カワイ音源モジュールK4rでも同様のことができます。

4 シーケンサーを使っての録音と再生



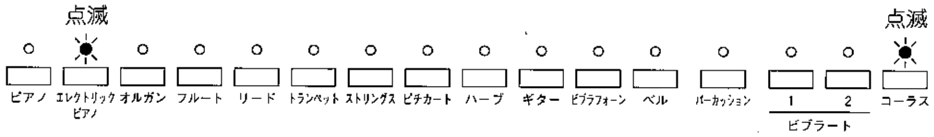
図のように接続すれば、電子ピアノの演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができ、電子ピアノの練習に役立てることができます。
また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオンにして録音／再生を行なえば、ピアノ、ハープシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。
シーケンサーに、カワイQ-55を使用した場合は、Q-55側のボタンひとつで簡単にアンサンブル録音／再生が可能です。シーケンサーの取扱いについてはシーケンサーの取扱説明書をお読みください。

5 MIDIチャンネルの設定

MIDIには1から16までの“チャンネル”があります。MIDI信号を送信する楽器と受信する楽器のチャンネルが合っていないと、MIDIは正しく働きません。
ここでは、EP55のMIDIチャンネルの設定の仕方を説明します。
MIDIについて詳しいことは、16ページをご覧ください。

1　“設定モード”に入ります。(13ページ参照)

2　「エレクトリック・ピアノ」のボタンを押します。
(13ページ参照)

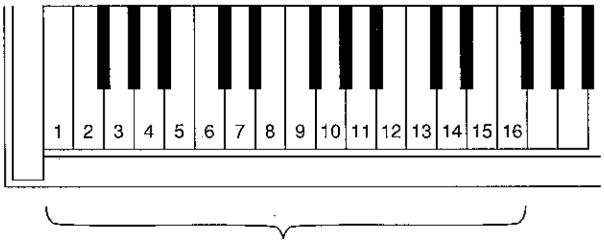


「エレクトリック・ピアノ」のボタンが点滅し、MIDIチャンネル(およびマルチ・ティンバー・モードのオン/オフ)を設定できるモードになりました。

★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3

設定したいチャンネルの鍵盤を押します。
MIDIチャンネルの設定は左端から16個の白鍵を使用します。



チャンネルNo.は、
1～16チャンネル
まで指定できます。

チャンネル No.

設定したいナンバーの鍵盤を押すと、送信チャンネル、受信チャンネルとも、そのナンバーに設定されます。

ステップ 4

MIDIチャンネルの設定が終わったら、「コーラス」ボタンを押して“設定モード”から出ましょう。
他の音色ボタンを押して、引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

★電源を入れた時には、1～16のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。これをオムニ・オンと呼びます。チャンネル設定を行なうとオムニ・オフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。

6 プログラム（音色）ナンバー送信の設定

通常、MIDIをもつ楽器には各楽器ごとに音色にプログラム・ナンバーがつけられています。そのプログラム・ナンバーをMIDIで送信することにより、受信先の楽器の音色をかえたり、シーケンサーに音色の設定を録音させることなどができます。
本機では、通常の演奏中に13個の音色セレクト・ボタンを切り替えることにより、下表のような（0～12までの）プログラム・ナンバーを送信できるようになっています。

音色セレクトボタン	プログラム・チェンジ・ナンバー
ピアノ	0
エレクトリック・ピアノ	1
オルガン	2
フルート	3
リード	4
トランペット	5
ストリングス	6
ピチカート	7
ハープ	8
ギター	9
ビブラフォーン	10
ベル	11
パーカッション	12

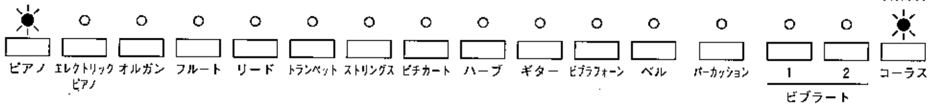
この音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーの送信やパネル操作の送信は、次の方法により、送信するかしないかを設定できます。

ステップ 1

“設定モード” に入ります。（13ページ参照）

ステップ 2

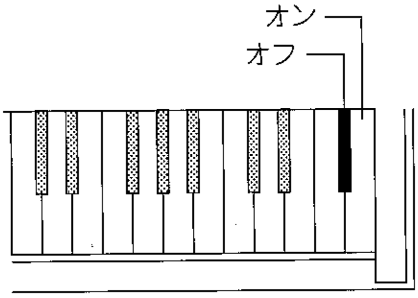
「ピアノ」の点滅はプログラム・チェンジ送信の設定モードを示しますので、そのまま次のステップに進みます。
他の設定モードに入っている場合は、「ピアノ」のボタンを押します。（13ページ参照）



「ピアノ」のボタンが点滅し、プログラム・ナンバーの送信を設定できるモードになりました。

★この状態では鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3　右端の白鍵（オン）または、黒鍵（オフ）を押します。



右端の黒鍵を押すと、音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーの送信をしません。逆に右端の白鍵を押すと送信します。

ステップ 4　設定が終わったら「コーラス」ボタンを押し、“設定モード”から出ましょう。
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

★電源を入れた時には、プログラム・チェンジナンバーの送信は、自動的に“オン”にセットされます。

7 マルチ・ティンバー・モードのオン/オフの設定

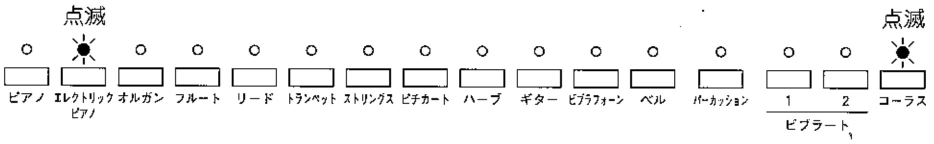
通常は、前述の方法で設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか１つ）で情報を送信・受信しますが、マルチ・ティンバー・モードをオンにすることにより複数のMIDIチャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。この機能により､外部にシーケンサーを使って、本機１台で「複数の音色（マルチ・ティンバー）」によるアンサンブル演奏が可能です。

マルチ・ティンバー・モードのオン/オフの設定は、次の方法によります。

ステップ 1　“設定モード”に入ります。（13ページ参照）

ステップ 2

「エレクトリック・ピアノ」のボタンを押します。(P13参照)

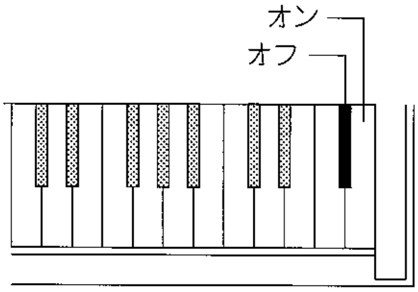


「エレクトリック・ピアノ」のボタンが点滅し、マルチ・ティンバー・モードのオン/オフ(およびMIDIチャンネル)を設定できるモードになりました。

★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 3

右端の白鍵(オン)または黒鍵(オフ)を押します。
右端の白鍵を押すと、マルチ・ティンバー・モードが"オン"、黒鍵を押すと"オフ"になります。



マルチ・ティンバー・モードがオフのときに、MIDI情報を受信すると、そのとき選ばれてきた音色セレクト・ボタンの音色が鳴ります。
マルチ・ティンバー・モードがオンのときは、どの音色セレクト・ボタンが選ばれていても受信したMIDIチャンネルに対応して下表の音色が鳴ります。

チャンネル	音色	チャンネル	音色
1	ピアノ	9	ハープ
2	ピアノ	10	パーカッション
3	エレクトリック・ピアノ	11	トランペット
4	リード	12	フルート
5	オルガン	13	ベル
6	ギター	14	ピチカート
7	ビブラフォーン	15	ピチカート
8	ストリングス	16	ピチカート

★電源を入れた時には、マルチ・ティンバー・モードは"オフ"に設定されます。

ステップ 4

マルチ・ティンバー・モードの設定が終わったら、「コーラス」のボタンを押して"設定モード"から出ましょう。
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

仕様

鍵盤数	木製76鍵／NewAWA鍵盤
同時発音数	最大32音（コーラス使用時最大16音）
音色数	12音色＋パーカッション53音色
効果	ビブラート（1，2）、コーラス
その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューン、タッチ・カーブセレクト（オフ、チャイルド、ライト、ノーマル）
ペダル	ダンパー、ソフト
外部端子	ヘッドホン端子、 エクスプレッション端子、 インプット端子（L/MONO, R） アウトプット端子（L/MONO, R） MIDI端子（IN, OUT, THRU） ACアウトレット（100V電源端子）
キーカバー	スライド式
定格電圧	AC100V, 50/60Hz
消費電力	34W
メインアンプ	10W×2
スピーカー	16cm×2
寸法（W×D×H）cm	123×49×82（スタンド組立て時）
重量	51kg
付属品	取扱説明書、保証書

Date : 1993. Mar.
Version : 1.0

[KAWAI DIGITAL PIANO]
Model EP55 MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード	電源ON時 メッセージ 代　用	3 × ＊＊＊＊＊＊	1 × ×	**電源オン時オムニ・オン。 MIDIチャンネル設定 操作によりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	 音　域	28-103* ＊＊＊＊＊＊	0-127 15-113	
ベロシティー	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH V=1-127 × 8nH v=64	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×	○	
コントロール チェンジ	7 64 67 11	× ○（右ペダル） ○（左ペダル） ×	○ ○ ○ ○	ボリューム ダンパー ソフトペダル エクスプレッション
プログラム チェンジ	 設定可能範囲	○　0-12 ＊＊＊＊＊＊	○（0-127） 0-12	 左記以外は 0
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	:ソングポジション :ソングセレクト :チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	:クロック :コマンド	× ×	× ×	
その他	:ローカル ON/OFF :オール・ノート・オフ :アクティブセンシング :リセット	× ○ ○ ×	○ ○（123-127） ○ ×	
備　考		*22-108トランスポーズによって変化する。		

モード1：オムニ・オン、ポリ　　モード2：オムニ・オン、モノ　　○：あり
モード3：オムニ・オフ、ポリ　　モード4：オムニ・オフ、モノ　　×：なし